

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

# 湖鳥会会報

第6号 平成9年12月 鳥取市湖山町南4丁目101番地  
鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会 湖鳥会



## <目次>

- 学科長あいさつ
- 講座主任あいさつ
- 退官・新任教官の言葉
- 学生の海外渡航記
- 同窓生の声
- 平成8年度事業報告および平成9年度事業計画
- 平成8年度決算報告および平成9年度予算案
- 湖鳥会からの連絡

電気電子工学科の近況

電気電子工学科 学科長 安東孝止

平成元年の旧電気・電子工学科の合併から9年が経過しました。この間に教養部の廃止に伴う大学全体の改組、大学院では後期課程（博士課程）の実施、社会人選抜（修士課程）制度、リフレッシュ講座の新設など、学内の制度は勿論、大学をとりまく社会環境も大きく変化してきました。当学科も、このめまぐるしい変化の中で、色あせることなく時代が要求する優秀な人材の育成に少しでも近づけるよう、教職員一団となって頑張っているところです。もうすぐに到来する21世紀は、マルチメディア等と呼ばれる“情報化社会”が成熟する時代となり、電気電子工学分野で新たに生まれる新技術（ハード・ソフト両面で）が我々の日常の生活スタイルに今まで以上に深く関わってくると思われまふ。本学科では、これからの社会構造の変化にも大きな責任を担



安東教授（左）と留学生のみなさん。

う学科の一つとして、最大限努力していかねばならないと考えています。

既にご承知のように、当学科は現在、電子情報制御、電気電子システム、および電子物性デバイスの3大講座（11研究分野）で運用しています。これらの各研究分野では諸外国からの留学生、社会人学生（大学院後期課程）、ポストクの学生など、多様な（国籍も、年齢も）学生や研究者が教育・研究に元気に励んでいます。また大学に設置された共同研究センターでは学内外の講師や当学科の諸先生によるセミナーも精力的に行っています。このような地域社会との密接な連携は、大学運営はもちろん、現在の大学自身の存在価値を理解して頂くための必要条件ともなっています。当電気電子工学科も常に古い衣をぬいで、新しいエネルギーによる継続的な自己改革をしながら、懸命に脱皮し、生き伸びていかねばならない時代のようです。

変化といえば、最も大きな変化（建物）が幸運にも当学科にやってきました。当電気電子工学科は本年3月に、教育・研究設備が飛躍的に充実した新棟への移転を行いました。現在は、新しい装置、設備が立ち上がり、稼働し始めたところです。このすばらしい環境での教育・研究に教職員スタッフも学生も全員活気に溢れています。諸先輩の方々には、機会がありましたら是非一度、新しい設備の充実した新電気電子棟をご覧頂きたいと思ひます。同時に併設された新大学院棟と我々の新電気電子棟を目の当たりにご覧になられると“我が、電気電子もなかなかやるわい”と言って頂けるような気がいたします。是非、出かけてきて下さい。そのときには、大学との共同研究や共同開発のご提案等、なんでもお気軽に教職員に声をかけて頂きたいと思ひます。また、電気電子工学科に対し先達としての忌憚のない御意見も頂きたいと思ひます。

最後に、このめまぐるしい変化の中で、変わらずに、常に本学科への暖かいご支援とご強力を頂いています同窓生諸氏、諸先輩のご健康と益々のご活躍を祈願し、近況報告とさせていただきます。

博士後期課程(博士学位取得)のご案内

電子情報システム工学講座



講座主任 西守克己

平成8年度は記念すべき慶事がありました。鳥取大学大学院工学研究科博士後期課程設立後はじめて課程修了博士学位取得者24名を送り出し、うち電子情報システム工学講座からは6名の博士(工学)が誕生しました。これにより名実ともに、本講座も社会に開かれた最高の教育研究の場を提供できるようになりました。さて当大学院博士後期課程は3専攻からなり、その一つの情報生産工学専攻の中に電気電子工学科を母体とする電子情報システム工学講座があります。現在、本講座には

- 博士後期課程1年次4名(社会人3名, 外国人留学生1名),
- 2年次4名(社会人3名, 外国人留学生1名),
- 3年次7名(社会人6名, 外国人留学生1名)

の合計15名が在籍しています。これをみてもお分かりになりますように社会人の方が大半ですが、職場での必要性が高いことを示しております。とくに在職しながらの社会人入学生には、無理なく博士学位が取得していただけるように研究教育指導を行っております。博士号は特殊な人達の業績に対して授かるものだと思われがちですが、今や経済的にも科学技術的にも成熟したこの日本では、欧米と同じく研究技術開発に携わる者の一定の資格として定着しつつあります。今後とも、大いにこの博士後期課程を利用し、博士学位取得による自信と社会的評価に基づいた実力を養成されますようお願いしております。お問い合わせは巻末の電気電子工学科事務までお願いします。

## 退官教官の言葉

鳥取単身生活八ヶ月

電子物性デバイス講座・教授 西田 良男

同窓生には、各地でご活躍のことごとく同慶に存じます。大内先生が去る3月で定年を迎えられ、ピンチヒッターとして鳥大にきました。ピンチヒッターというのは、この一年で私も定年になるからです。単身生活や犬のこと、鳥取の印象についてを書いてみます。同窓生の中には転勤で単身生活を余儀なくされている方もいられるかと拝察いたします。



私は阪大基礎工学部を定年になり、そのあと関西の私大の講師をしてきましたが、鳥大の話があったとき鳥取への好奇心が急に湧いてきました。元来なんでも体験してみたいという性格です。鳥取県勢要覧をみますと、県人口(61万人)は鳥取県が一番少なく、人口密度(175人/km<sup>2</sup>)は大阪府の26分の1です。人が少なく、豊かな自然に恵まれ、大伴家持も住んだ古い文化をもつ土地というイメージが浮かびます。日本は経済的に豊かになりましたが、その代償として環境破壊、大都市への人口集中が進み、今自然への回帰を求める人が増えています。若いときは都会で活動することも必要ですが、第二の人生では都会を離れて生活したいと願っている人は多いと思います。私にとっては願ってもない体験です。勿論鳥大に再就職すればそれに伴う義務を務めなければならないことは承知しています。家内は高槻の留守を守りたいということで単身赴任と決まりました。単身生活は20年余前にドイツで経験済みですし、またいずれ夫婦のどちらかは独りになる運命ですから、こちらが残されたときに備えてその訓練にもなるだろうと考えました。単身赴任では、料理ができんと健康が保てないし、食欲の楽しみもなくなる。大学生協の食堂は昼食だけを利用し、朝晩は自炊することにした。われわれの世代は男子厨房に入らずという傲いだったが、そんなことは今は通用しない。といって家内にいちいち聞くのはばつが悪い。高槻市の新聞で「単身男性の料理教室」というのが目に付き、出掛けた。この教室でお米の水加減がわかったし、肉じゃが、炊き込みご飯、酢のものなどを教わった。料理というものは実験に似て基本を知れば後は応用だけで、実験より遥かにアバウトである。料理本に書いてある食材や調味料の量はいちおうの目安と考えたらよく、自分で勝手に変更しても結構美味しい料理が出来て満足できるものである。料理は思案より先ず行動である。調理器と調味料は家内が揃えてくれたのでベースは整った。さいわい、鳥取は山の幸、海の幸が豊富で四季折々の食材には

事欠かない。先日賀露の魚市場に出掛けると、松葉ガニがたくさん腹を上にして並んでおり、阪神からの買物客がバスを連ねて賑わっていた。隔休日位には賀露に出掛けて旨い魚を探す、並べている物が観光客を対象としているので、独り者には量が多過ぎ買うのに躊躇する。秋口になってから、アンコウ、ヒラメ、カレイ、カニを買い求めたが、2回から3回同じものを食べる羽目になった。この次は体長50センチ以上もあるイカを狙っているが、このイカは刺身にして冷凍すると保存がきくということである。

単身赴任ですが、実は犬と二人(?)で暮らしています。娘が飼っていた6才のシェパード、アニス(体重33キロ)がおり、娘が渡米中なのでその間アニスの面倒を私が引き受けることになり、一緒に鳥取に連れて来る運命になりました。アニスは私を主人と認めよく言うことを聞きます。犬を戸外で飼ってもよいという適当な借家が見つかり、広さ10m<sup>2</sup>位の駐車場を網で囲って犬舎にしています。高槻では敷地内を放し飼いにしましたが、ここでは終日紐でつかないでおかねばなりません。始めの頃は私が大学にでかけるとき、置いてけぼりになるのではないかと不安から吠えましたが、2月も経つと環境にも慣れて落ち着いたまじり。アニスを連れてくるお蔭で、高槻・鳥取の往復はスーパーハクトにも乗れず、バジェロの後部席に乗せていつも同伴です。東京へ行くときも飛行機は利用できず、高槻までバジェロで帰って新幹線に乗り継ぐ。その代わりアニスのいるお蔭で朝晩それぞれ40分程散歩するので健康にはすこぶる良い。体脂肪計付きの体重計を求め、朝晩乗っているが安定している。アニスは人間の3、4才ぐらいの知恵がありこちらの言葉がある程度通じるので、こちらのコントロール下にある間は安心である。例えば、引き綱を放して自由にしても飼主に注意を向け、傍から離れない。しかし、自由にしているときに猫やボールを見つけたとそれに突進して、アウト・オブ・コントロールになる。人には危害を加えたことはないが、アニスを怖がる人は多い。一度、グランドゴルフを練習しているところに通りあわせ、ボールを追いかけてくわえて逃げ、得意げな顔でこちらを見ている。犬は飼主から一定の距離のところまでしか近づかないし、こちらが追いかければ逃げる。その人は近所の方だったのでボールは貰って済んだが、こんなわけで街の中ではアニスを自由にはできない。私は山歩きが好きで、山歩きにアニスを連れれば友達と一緒にような気分になる。人影の見えない山道ではアニスを放して歩く。扇の山、氷の山、大山に登った。氷の山ではアニスが突然藪の中へ突進し、リスをくわえて戻りこちらの制止する暇もなく食べてしまった。扇の山は鳥取平野の東に聳えるなだらかな高い山(1310米)で、林道が頂上を取り巻いて走り、車が少なく山岳ドライブに快適である。山に犬を連れてくる人は少ないが、犬好きの人は意外に多い。犬を介して会話



が始まり犬も功德を施している。特に若い女性が犬に興味をもって触ると、アニスも犬好きの人はわかるようで顔を舐めて親愛の情に応えようとする。

借家は布勢の運動公園の近くで、朝晩の犬の散歩に運動公園を利用している。樹木の茂った小高い岡に囲まれ、芝生の緑が広々と広がり散策に気持ち良いところである。鳥取県は芝生の生産量が全国二位とか聞いたことがある。夕方には多くの人がジョギングをしていて、感心する。鳥取から有名なマラソン選手、森下広一、山下佐知子の二人が輩出した秘密はこのような立派な競技場とマラソン熱にあると思われる。

この運動公園ではスポーツ大会の他に、時々農林水産祭、植木市や陶器市などのイベントがあつて多くの家族連れで賑わう。11月8、9日の小春日和の日に農林水産祭があつて出掛けたが、果物や野菜を積上げたテント張の店、あまごの塩焼、そば、おこわ、焼肉などの屋台がところ狭しと両側に並び、緑日のような人出である。別の人たちはテント張りの後にある芝生の上で食欲の秋を楽しんでいた。私もあまごの塩焼きに缶ビール、それに鹿野そばを求めおいしかった。食欲旺盛な若者のグループは焼肉セットを買ってバーベキューをしている。芝生の斜面では、子供たちが段ボールをお尻の下に敷いて草スキーをして遊んでいる。ぶつかってひくり返っているものもあるが、皆おもしろいように楽しそうである。子供は遊びの天才というのはいかにこれを指すのかと思った。このような豊かな祭を大阪では知らない。大阪でやれば人が集まり過ぎて混乱が起こるのではないか。そしてドイツの祭(フェスト)を思い出した。20年余り前になるが、ニュールンベルグの近くエルランゲンの祭に夏頃友人に誘われて行ったことがあつた。牛を丸ごと串刺しにして焼いており、焼けるとそれを捌く。横に今焼いている牛は十何頭目と書いてあり、焼き上がるのを待つ人の行列が出来ていた。牛の丸焼きとドイツ人の食欲が印象に残った。そのほか、焼ソーセージ、アイスクリーム、フライドポテト、1リッタージョッキでビールを売る店がたくさん並び、人々で賑わい楽しい雰囲気だった。民族衣裳を着た人たちが音楽を奏し、ダンスをしている。1976年頃、日本の市民の楽しみは慎ましかった。戦後の復興はドイツの方が一歩先んじていた。当時、1ドイツ・マルクは115円であつたが、今は74円である。当時は丁度アメリカの輸入車台数について、トヨタの車がドイツのフォルクスワーゲンを抜いたと世界のニュースになっていた頃である。今日の農林水産祭の盛況は20年前のドイツを彷彿とさせた。日本ではあまごの塩焼き、ドイツでは牛の丸焼きこれは文化の違いだが、どちらも豊かに人生を謳歌している。ドイツでは私はバイエルン州に暮らしたが、バイエルン州はドイツ南部の農業圏で自然に恵まれドイツ人が夏休みに多く訪ねる。バイエルン州の人口密度は168人/km<sup>2</sup>で鳥取県とほぼ同じであり、この値は人間と自然が共存する

のに適正な水準なのだろう。鳥取では人口と道路や運動公園などの社会基盤とのバランスが適正なのであろう。

鳥取大学の先生は、入学する学生は他県からのものが多く、卒業すると他所へ就職し鳥取県に定住しないことを嘆いてられる。これは鳥取に大きな企業が無いことによるのであろうが、鳥取が大阪や東京と同じパターンの道を行くより独自の道を辿るべきである。休日に大山や砂丘に行くと大阪や神戸ナンバーの車を多く見かける。これらは都会の喧騒を逃れて、「ふるさと」に夢を求めてきたのであろう。奇しくもふるさとの小学唱歌は鳥取出身の岡野貞一の作曲である。住み易い県についての住民調査結果は鳥取県が上位一桁の中にあつたと記憶している。願望と現実とが乖離するのは世の習いであり、そこに人間の生きる夢がある。

## 新任教官の言葉

電子物性デバイス講座・助手 阿部 友紀

平成9年4月1日付けで助手として着任致しました。これまでは、光デバイス材料である化合物半導体の分子線エピタキシャル成長と量子物性に関する研究に携わってきました。こちらでも、安率孝止教授のもとで、関連する研究を行っております。世の中が大きな改革の流れの中にあり、大学もその真価が問われている今日、鳥取大学でも改革への動きが強く感じられます。このような中であつて、若輩者ではありますが、研究・教育活動に少しでも貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



電気電子システム講座・講師 西村 亮

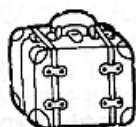
平成9年4月1日付けで着任いたしました。それまでは山形大学の電子情報工学科に勤務しておりました。エネルギー資源の有効利用と電力発生、特に高効率MHD発電を主な研究テーマとしております。また、ファジィや遺伝アルゴリズムの応用にも興味を持っております。鳥取での生活は初めてですが、まわりの方々も皆親切で、非常に暮らしやすいところだと感じております。本学の発展のために少しでも貢献できればと思っております。皆様方にも今後よろしくお願ひ申し上げます。



# 学生の海外渡航記

今年度、工学部同窓会海外研修奨学金制度を利用して、海外における交流活動を行った在学生の方たちからの手記を紹介いたします。

氏名	学年	渡航先	目的
岩崎裕文	M1	ポーランド	P-J SEMINAR'97 発表
小引裕司	M2	ドイツ	EUFIT'97 発表
四方俊昭	M1	ドイツ	EUFIT'97 発表



## P-J SEMINAR'97 (1997.5.7 - 26)

平成9年度 電気電子工学専攻入学 M1 岩崎 裕文

ドイツで開かれる ISEM とポーランドで開かれる P-J SEMINAR の二つの学会に出席するため、5月7日、関西国際空港よりドイツに向けて飛び立った。日数的に、少し余裕を持って出発したので、ドイツ国内を十分に観光することができた。ドイツには、町の中心部にでさえ、古い建物がたくさん残っていて、まるで映画の中のワンシーンのような気分させてくれた。また、緑の公園がたくさんあって、休日ともなると、ベンチで本を読んだり、ジョギングなどをして体を動かしたりしている光景を何度も見た。ドイツ人は、休日の過ごし方が上手だなあと素直に思った。ドイツ北部のブラウンシュバイクで開かれた ISEM では、大勢の人のポスターが掲示しており、それらを一つ一つ見て歩いた。夕食会では、向かいの席にルーマニアの学生がいて、片言の英語で会話をした。彼らの方が明らかに英語が上手で、「何年英語を勉強しましたか？」と聞かれたときは正直言ってもすごく恥ずかしかった。ドイツに来てから毎日、英語は重要であることを痛感させられたが、この日ほどそう思ったことはない。

その後、ベルリンに移動し、そこから列車でポーランドのグダニスクへ向かった。国境付近でパスポートチェックがあったがこれがまた物々しかった。銃を持った二人がやってきて入念にチェックを始め、「カバンの中を見せろ」とまでいわれた。ポーランドの町

は、ドイツと違って少しさびれているような感じだった。近年は、EC との交流も増え、少しずつ活気がでてきているようだ。その証拠に、マクドナルドがあった。翌日、P-J SEMINAR が始まり、OHP で自分の発表の時がやって来た。発表する内容は頭にたたき込んでいるものの、最初はすごく緊張した。視聴席の一番前に座っていた日本の大学の先生が、僕の発表にうなずいていてくれたので、少なくともこの先生には、僕の英語が通じていると思っほとした。その後は、自分のペースで発表することができた。最後の質疑応答では、英語が聞き取れなくて、斉藤先生にお願いしたものの、発表後、すごく充実した気分になった。

学会も無事終了し、フランクフルトまで、いろんな町に立ち寄りながら戻った。そして飛行機に乗り、5月26日の夜、無事日本に帰ってきた。久しぶりに食べた日本食がおいしかった。

今回、外国に行って一番痛感したことは、これからの国際化時代においては、やはり英語が重要であるということである。日本にいと、なかなか外国人と話す機会がないけど、もしそういう機会があれば勇気を出して積極的に話をしたいと思う。





平成9年度 電気電子工学専攻入学 M1 四方 俊昭

1997年9月8日から12日にかけて開催された、EUFIT '97に参加するため、ドイツを訪れました。ドイツでは、学会参加のほかに、観光や研究所の見学のために、日本を出国したのは8月21日でした。

海外で過ごすのはこれが初めての経験であり、緊張と不安の気持ちの中、ドイツに到着しました。ドイツの空港からは列車で移動し、最初の訪問地ベルリンに到着しました。ベルリンの町は、まわりいたるところ工事をしていました。多くの駅、多くの建物が新しく生まれ変わろうとしていました。ところで、ドイツの公園はとても広く、木もたくさん生えていて、注意して見ていけば、枝の上を走っているリスなどを見ることができました。

しばらくベルリンで過ごした後、次に訪れたのが、ケルンでした。ケルンにはご存じかもしれませんが、ライン河という大きな川が流れており、そのため、朝方には霧に包まれてしまいます。霧がでるということは、その日の天気は晴れということであり、天気がわかって便利なのですが、霧が出ているときにドームの尖塔に登ってしまったので、苦労して登ったのに景色が霧で何も見えないということになってしまいました。

最後に訪れた町が、今回の海外渡航の目的である、学会開催地のアーヘンです。私が発表を行った部屋は、人が200人ほどはらくに入れるくらいの広い部屋で、その部屋に入っただけで緊張してしまいました。

発表は15分程度行いました。発表が終わってようやくたくさんの方が聞きに来てくれていたんだなと気づきました。発表中は、まわりのことがまったく目に入っていなかったということです。

いろんなことがあった海外経験でしたが、言葉や習慣の違う世界で見てきたことは、今後の人生の中で、必ず役に立つことがあると思います。

# EUFIT'97 (1997.9.8 - 12)

平成9年度 電気電子工学専攻入学 M1 小引 裕司

1997年夏、EUFIT'97に参加するため、3週間ほどかけて、ドイツに出かけました。

今回、初めて海外に行ったのですが、まさに見るものすべてが初めてで、最初、数日間は何を見ても感動していました。フランクフルトで見た映画に出てくるようなドーム型の屋根、ベルリンにあるシャルロッテンブルク宮殿、古城など、本当にため息が出るくらいすばらしかったです。

しかし、言葉はあまり通じないという不安がともあり、慣れるまでは大変でしたが、親切に教えてくださる方が多くて、なかには時間があるからと言って、街の中を案内してあげようと、3時間近くもつきあっていただいたドイツの方がいて、とても普段では体験できない貴重な時間を過ごせました。

論文発表は、日程の最後の方にあつたのですが、緊張しすぎて、数十分の発表でしたが、あまりうまくはできませんでした。それでも、司会者や先生の方等に助けていただき、なんとか海外で発表するという貴重な体験をして、無事帰ってくる事ができました。

今回の海外の滞在していた期間、今までにない、特に外国人と会話するという、普段あまり体験できない機会が多々あり、とても勉強になったと思います。今後海外に行く機会も増えてくると思いますが、今回の経験を生かして行きたいと思います。



ポツダムのとある宮殿前。この日はちょっと蒸し暑かった。



ブランデンブルク門(ベルリン)にて。

## 同窓生の声

このコーナーでは同窓生から湖島会に寄せられた記事を掲載します。編集委員会からお願いして書いていただいた記事が多いのですが、それら寄せられたものを内容を改竄することなく載せることを趣旨としています。記事は大学在学の各理事等に電子メールや郵便で届いたものを載せています。

### 原 雅人様から

昭和 62 年 3 月 電気工学科卒業

現在、鳥取県庁に勤務。

皆さんこんにちは。この記事を読んでおられる皆さんは大多数鳥取県外にお住まいのことと思います。私は大学を卒業して鳥取県庁に勤務し早 10 年が過ぎました。現在は営繕工事に関する仕事を担当しています。主な仕事は工事の設計、監理であり日々業者と打ち合わせを行っています。

最近公務員に対する風当たりが厳しい報道がありますが、私たちの仕事では千円の積算の根拠を作成するのに何時間も費やすことがあるくらい厳格に仕事を行っています（これでは税金の無駄遣いとお叱りを受けるかもしれませんが）。また、主管課（事業の直接の担当課のこと）から依頼された次年度の営繕工事の予算見積もりを行うこともありますが見積もっただけでポツになることもある！ 見積もりとはこんなものか...（これまた税金の無駄遣いと叱られるかもしれませんね）

最近の出来事について一言。

先ごろ職場で使用しているノートパソコンが故障してしまいました。何とその原因はゴキブリではないかと思われるのです（原稿執筆段階では修理中のためメーカーから正式な原因は報告されていないが！）。皆さんの職場でもおそらく年に数回は害虫駆除のため室内を消毒されると思いますが、正にその消毒により我がコンピュータも駆除されてしまったのです。

故障に至る経緯は次のとおりです。終末の土曜日庁内一斉に消毒が実施されるので職場の全員にコンピュータ等電子機器はビニール等に包む対策を取るよう指示し、当然我がノートパソコンもビニールに包んで退庁した。月曜日、先週末に養生のためコンピュータを包んでいたビニール袋を取り、各種ケーブル類を接続しシステムを立ち上げた。その段階では特に異常もなく、ネットワークも順調に動作していた。しかし、何とフロッピーディスク (FDD) にアクセスしようとするときディスクを入れているにもかかわらずディスクが挿入されていないとメッセージが出るではないか。

何事が起きたのか分からず、とりあえず FDD ユニットのを外してみるとパソコン本体内よりゴキブリ

のふんや足が出てくるではないか。

当初 FDD でのシステム起動は正常に行えるため、ソフトに原因があるのではないかとデバイスドライバ等を再インストールしてみたが効果が無かった。仕方なくデータをネットワークで他のコンピュータの MO へコピーしシステム (Windows 95) を再インストールしたがやはりダメ！ハードに詳しくない私としてはこれ以上原因究明ができないため修理を依頼した次第です。

今回のことでやはりデータのバックアップはきちんと行っておかないと業務に多大な被害が発生することが身にしみて分かりました（この度はネットワーク機能が正常に動作していたので事無きを得たが）。皆さんもすぐにでもバックアップを取るようにならなくてはどうか。

最後に、ここ数年間における大学の変化は非常に凄まじいものがあり、地元に住んでいながら把握しきれない状況にあります（あまり積極的に情報を収集しているわけではありませんが...）。ぜひ一度遊びがてら大学に顔を出してみたいはいかがでしょう。懐かしさと驚きがあると思います。



### 戸田 典彦様から

現在、沖電気工業 (株) 勤務。

鳥取大学での講義を振り返って。

私は 5 月の終わりに「超電導エレクトロニクス」の題目で講義をさせてもらった。講義を依頼された時、まず考えたのは（超電導は一つの狭い分野とはいえ）材料から応用まで、研究されている内容は多岐に渡るので、全体をレビューするか、一つを掘り下げるか、ということであった。全体をレビューすれば（本で言えば軽い読み物なので）理解してもらえらるであろうが、教科書と変わらない。掘り下げれば何を言っているかわからない内容であったとしても「知的な」感じがする。結果的には教科書で読める内容は少なくて、自分のやってきた内容を（できるだけ定性的な話ができるように）準備して講義に臨んだ（つもりである）。

その講義の中で気づいたことが 2 点ある。一つは学部の 3 年生相手だったので、ゼミ（研究室）や会社内で用いている専門用語が通用しないことである。「スパッタ装置」や「アライナ」が通じないのには困った。この事は講義資料準備中にまったく予期しなかつ



た。さらに言えば、学会で発表する図は一般には分かりやすくはない図であるという事である。やはり「わかってもらうためのプレゼン」は難しい。二点目は、話を聞いていない人でも就職や会社での体験談は熱心に聞いてもらえたことである。やはり世間が就職難・氷河期だと騒いでいるので、興味があるのだろうか？ただし、この部分の話は主観がかなり入っているので、出来るだけたくさんのお情報を集めるようにしてもらいたい。

以上講義を終えて振り返ってみると、改めて教師という仕事は大変なのだと感じた。しかしこの大変なところに面白さがあるように思われる。

最後に、いろいろと準備して下さった岸田先生をはじめ、研究室の皆さんに感謝いたします。



## 豆田 順一様から

昭和 47 年 3 月 (第 1 回) 電子工学科卒業

現在、(株)日立製作所半導体事業部勤務で関西支社  
電子機器部に在勤

E-mail: mameda@cm.kansai.hitachi.co.jp

同窓生の皆様お元気ですか。私は、卒業以来(株)日立製作所半導体事業部に勤務しており、現在は営業技術として関西支社の電子機器部に在勤し丸3年になります。営業技術の職務範囲の定義はどれも各社で少し異なる様ですが、日立の半導体事業部では字句通り、営業と技術(設計)の間に位置し、お客様のセット部門へ日立の半導体を紹介したり、日立社内の設計部門と製品戦略を打ち合わせたり、お客様からの技術的質問に対する対応を行ったりします。また現在は支社に在勤しているため、関連する応用分野はマルチメディア、情報家電、自動車、通信等のすべての分野で、且つマイコン、メモリ、ASIC、ディスクリート部品等の全半導体製品群を担当しています。さらに土地柄から松下電器産業、シャープ、三菱電機、三洋電機等、西は姫路から東は滋賀までをテリトリとしています。本会の卒業生や同窓会の役員の多い鳥取三洋電機(株)殿は、日立では広島にある中国支社の管轄になるため、残念ながら仕事でのお付き合いは難しい状況です。

さて私の職場は上記の様にお客様を訪問するのが仕事ですし、東京本社及びその近郊に位置する工場に行く事も多い為、事務所に一日いる事はほとんど無く、在席率は軽く半分を切って20~30%程

度になっています。そこで活躍するのが、今流行のモバイル機器です。現在愛用しているのは Mac の PowerBook Duo280c で、これに携帯電話と FAX モデムで SOHO (Small Office Home Office) が完成します。原理的にはインターネットや社外との E-mail も可能ですが、主な用途は日立内のイントラネットである CC メールです。一時期日立の TV コマercial でもやっていましたが、まさに朝事務所に来てパソコンのスイッチを ON することから仕事が始まり、移動中の新幹線や車の中で仕事の報告や指示の発信、最後に寝る前にメールのチェックとモバイルワーカを地で行っています。また最近は特に軽い DOS 系マシンが多く発売されているため、目移りが激しい今日このごろです。個々の職種にもよりますが、皆さんのモバイル利用度はどの位ですか。

最後になりましたが、湖鳥会の皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。



## 電子メールアドレス

会長および学内幹事の電子メールアドレスを以下にのせておきます。湖鳥会へのご意見やこの欄での記事等がありましたら連絡お願いいたします。

氏名	電子メールアドレス
鷲見 育亮	ysumi@tt.sanyo.co.jp
大木 誠	mohki@ele.tottori-u.ac.jp
岸田 悟	kishida@ele.tottori-u.ac.jp
藤村 喜久郎	fujimura@ele.tottori-u.ac.jp
田中 省作	tanaka@ele.tottori-u.ac.jp
北川 雅彦	kitagawa@ele.tottori-u.ac.jp
安東 孝止	ando@ele.tottori-u.ac.jp



# 平成8年度事業報告および平成9年度事業計画

## 平成8年度事業報告

### 1. 会員名簿の管理

- 住所不明者の調査を実施。  
データベース登録者 合計：2158名  
電気工学科 卒業生 : 957名  
電子工学科 卒業生 : 808名  
電気工学専攻 修了者 : 167名  
電子工学専攻 修了者 : 57名  
電気電子工学科 卒業生 : 363名  
電気電子工学専攻 修了者 : 381名  
データベース未登録者合計：48名
- 会員名簿（H8年12月発行）のための内容改訂作業を行いました。
- 次期会員名簿（H10年12月発行予定）の内容管理を行いました。

### 2. 同窓会設立基金の徴収

- 昨年度（1996/4/1-1997/3/31）の間に10名の方から同窓会設立基金を徴収しました。
- 現在までの実績：名522名／1,903名（27.4%）  
（尚、設立基金徴収対象者はH3までの電気工学科、電子工学科、電気工学専攻、電子工学専攻の各卒業、修了者の1903名です。）

### 3. 会報「湖鳥会会報 No.5」の発行

- 湖鳥会会報 No.5をH8年12月に発行し、全会員に配布しました。

### 4. 入会金の徴収

- 平成9年3月に電気電子工学科卒業生および電気電子工学専攻修了者から、入会金5千円を徴収しました。徴収人数91名（学部64名、修士27）
- 同時に、名簿、湖鳥会会報 No.4、記念品（テレフォンカード）を配布しました。
- 卒業後の住所を調査をしました。
- 会費の未納者のチェックを行いました。

### 5. 講演会の後援

- 「就職に関する講演会」を後援として開催しました。  
日時：H9年4月17日、場所：工学部第21番講義室  
参加者：学生118名、教官9名

### 6. 工学部同窓会との連携

- 工学部同窓会幹事会に参加（藤村、大木）
- 工学部同窓会海外渡航奨学金審査委員会に参加（大木）
- 工学部同窓会主催の講演会（H9年5月9

日、講師：馬場憲治氏）の準備委員会に参加（大木）

### 7. H9年度理事会の準備作業

- H9年度理事会の開催準備として、開催通知、事業報告、事業計画、会計報告、予算案などの作成を行いました。

### 8. その他

- 広く会員からの意見を受け入れ、会員相互の親睦のための活動を行いました。

## 平成9年度事業計画

### 1. 会員名簿の改訂及び管理

- 住所不明者などを調査し、同窓生データベースを管理します。
- 各研究室毎に卒業生の現住所を調査・改訂します。
- 次回の名簿発行予定は1998年（平成10年）12月です。

### 2. 入会金の徴収および記念品の配布

- 1998年（平成10年）3月に電気電子工学科（第6回）卒業生、電気電子工学専攻修了者から、入会金を徴収します。
- 同時に、1995年（平成7年）発行の名簿、湖鳥会会報 No.5, No.6、記念品（テレフォンカード）を配布し、卒業後の住所を調査します。

### 3. 湖鳥会会報 No.6 の発行（12月）

- 今年度の予定スケジュール  
8月 基本方針検討・決定  
9月 各原稿依頼  
10月 原稿締切  
11月 印刷  
12月 発行

### 4. 工学部同窓会との連携

- 工学部同窓会幹事会への参加
- 工学部同窓会海外渡航奨学金審査委員会への参加
- 学生へのサービス活動への参加

### 5. その他

- 広く会員からの意見を受け入れ、会員相互の親睦のための活動を行います。

# 平成8年度決算報告・平成9年度予算案

## 平成8年度決算報告

### 収入 (1996.4.1~1997.3.31)

項目	予算	実績	備考
設立基金	0	0	0件
入会金	400,000	445,000	89名
会費	1,200,000	834,000	139名
その他	0	0	利息
小計	1,600,000	(1)1,279,000	

### 支出 (1996.4.1~1997.3.31)

項目	予算	実績	備考
会報発行	500,000	382,694	会報
アルバイト	100,000	99,677	
事務費	20,000	3,007	
会議費	50,000	2,011	
通信費	50,000	7,500	
その他	50,000	8,340	振込料
小計	770,000	(2) 503,229	

### 決算 (1996.4.1~1997.3.31)

(3)1996年度収支 (1)-(2)	775,771
(4)1995年度繰越金	2,790,561
(5)1997年度繰越金 (3)+(4)	3,566,332

### 預貯金残高 (1997.3.31 現在)

郵便振込口座 (設立基金)	477,120
郵便振込口座 (会費)	1,592,840
郵便・定額貯金	1,000,000
郵便・普通貯金	93,303
銀行・普通預金+現金	403,069
合計	3,566,332

## 平成8年度予算案

### 収入 (1997.4.1~1998.3.31)

項目	平成7年度決算	平成8年度予算
同窓会・設立基金	0	0
入会金	445,000	400,000
会費	834,000	500,000
その他	0	0
前年度繰越金	2,790,561	3,566,332
合計	4,069,561	4,466,332

### 支出 (1997.4.1~1998.3.31)

項目	平成8年度決算	平成9年度予算
設立総会・準備費用	0	100,000
会報発行	382,694	500,000
名簿管理・アルバイト	99,677	100,000
総会・補助	0	0
支部結成準備費用	0	0
事務費	3,007	20,000
会議費	2,011	50,000
通信費	7,500	50,000
その他	8,340	50,000
繰越金	3,566,332	3,596,332
合計	4,069,561	4,466,332

- 支部結成準備費を設けていますので、ご利用お待ちしております。申し出は会長または幹事経由でお願いいたします。



# 湖鳥会からの連絡

## 会長より一言

湖鳥会の皆様、ここに連続第6号の会報を発行できますことを、湖鳥会を代表して感謝申し上げます。当初無理と思われていた毎年発行を、会員皆様の暖かいご支援とご要望に沿えるよう編集委員で奮闘いたしました。そして、今年は、新しい試みもなされおります。今後ともますます充実した同窓会活動の一翼を担う会報に、会員皆様の更なるご支援（会報への原稿送付・会費納入等）をお願いします。

湖鳥会 会長 鷺見 育亮

## 編集者の声

湖鳥会会報の第6号が完成し、皆様のお手元に配達することができました。記事を書いていただいた関係者各位および編集に協力していただいた教職員および学外関係者の皆様に感謝いたします。ところで、今回の会報はほとんどの原稿を電子メールで集め、画像はイメージ・スキャナやデジタル・カメラでコンピュータに取り込み加工した上で、全体的な組版・編集を日本語 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X でおこないました。したがって、レイアウト全体はすっきりとしたものになり、見易いものとなったと思います。

湖鳥会 編集委員 一同

大木 誠, 鷺見 育亮, 藤村 喜久郎,  
田中 省作, 岸田 悟,  
安東孝止, 北川雅彦

## WWW ページの開設

湖鳥会もインターネット上で WWW による情報発信をする予定です。現在はまだ、水面下で計画中ですが、この会報が届くころには一部できていられるかもしれません。学科のアドレス “<http://www.ele.tottori-u.ac.jp>” から辿っていただけるようにしておきますので、お楽しみに！

湖鳥会 幹事 一同



鳥取大学電気電子工学科同窓会  
「湖鳥会」事務局連絡先  
〒680

鳥取市 山町南 4 丁目 101 番地  
鳥取大学 工学部  
電気電子工学科 気付

電気電子工学科同窓会 「湖鳥会」

TEL: 0857-28-0321 (代)

FAX: 0857-31-0880



## 会費納入のお願い

湖鳥会は皆様の納入された会費により運営されています。この会報、名簿の発行、各種行事への参加なども集めた会費があればこそできるものです。会費の納入は前年度平成8年でしたが、思うように集まっておりませんので、どうか納入にご協力お願いいたします。なお、会費未納の方は封筒に記載されている会員番号の下2桁の数字(00,01,11が付いている)でわかります。

湖鳥会 会計担当者